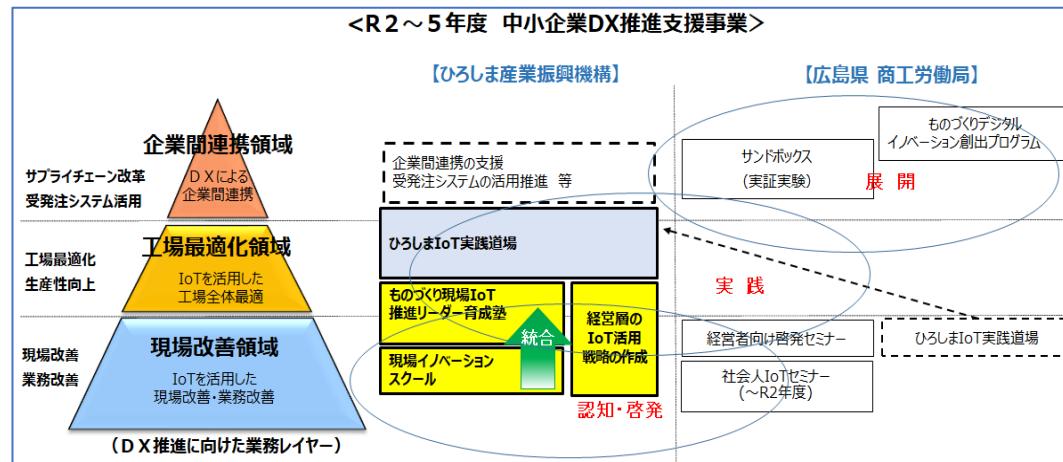


中小企業DX推進支援事業 2022年4月～2023年3月（以後の実施計画も含む）実施予定 ((公財)ひろしま産業振興機構)

【課題】

- IoT等デジタル技術の導入は、イノベーションを起こすための重要な要素であり、ものづくり中小企業においても、取組が注目されている。
- 県内のIoT活用の設備投資の実施状況は、ものづくり中小企業で約2割にとどまっており、「人材が不足している」、「従業員の知識・理解が不足している」、「業務多忙で時間が取れない」、「投資対効果がわからない」等のデジタル化を取り巻く課題も浮き彫りになっている。

【中小企業DX推進支援事業】



【R4年度本事業の内容（人材育成）】



【目的】

- 「現場改善領域」から「工場最適化領域」のレイヤーにわたる一連の支援を県内の中核的な産業支援機関である本財団が主催して取り組むことで、中小ものづくり企業のIoT活用を促進。
- 以て、将来的な「企業間連携領域」のレイヤーへの到達に寄与。

【成果目標】

- 本事業を通じて、7件のものづくり中小企業のIoT実装を目指す。（R2～5年度：22件）
 - ・ものづくり現場IoT推進リーダー育成塾：5件
 - ・ひろしまIoT実践道場（2年間で1サイクルの事業）：2件
- 各社のIoT活用戦略（個別に設定された稼働率の向上、製造原価低減等）の達成状況を見る。

【都道府県の施策との連携・親和性】

- 広島県では、イノベーション立県の実現を施策ビジョンとして掲げており、その柱の一つとして、絶え間なくイノベーションが創出される環境・状況「イノベーション・エコシステム」の構築を目指している。
- 加えて、すべての施策を貫く視点としてDXの推進に取り組んでいる。

- ものづくり現場IoT推進リーダー育成塾で、現状分析（AS-IS）を行った上で、IoT等デジタル技術活用のあるべき姿（TO-BE）を設定
 - 生産現場の基本（品質Q・コストC・納期D）の変革とデジタル技術の活用の連続性を強化
 - ⇒ものづくり現場IoT推進リーダー育成塾に、現場イノベーションスクールのカリキュラムの要素を統合
- ひろしまIoT実践道場であるべき姿（TO-BE）を実践して成果を地域へ展開し、これら一連事業のPDCAを回す

【波及効果】

各種事業の成果報告の公開・発信により、触発された、自発的なIoT推進のムーブメントを引き起^ここす。

- IoT活用したモデル企業を輩出し、IoT導入企業の裾野を広げる。
- 伴走する地場のITベンダー・SIerが、相互作用効果で、IoT関連をビジネスとして展開化することにより、地元企業間の繋がりを構築し、IoT導入拡大につなげる。

【将来の支援目標】

- 「企業間連携領域」のレイヤーへの到達を支援する。
- デジタルデータを活用した、企業変革や新たなビジネス展開
- 企業間連携やサプライチェーンの改革
- 受発注マッチング・受発注決済の効率化等